

## 博士課程教育リーディングプログラム現地視察報告書(平成27年度)

博士課程教育リーディングプログラム委員会

機関名	大阪大学	整理番号	C04
プログラム名称	生体統御ネットワーク医学教育プログラム		
プログラム責任者	澤 芳樹	プログラム コーディネーター	竹田 潔
<p>1. 進捗状況概要</p> <p>中間評価結果における指摘を的確に受け止め、確実に対応がなされている。個別事項への対応状況は以下のとおり。</p> <p>○学位プログラムについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課程後半のプログラムの充実：中間評価において指摘された3年次以降の学生に対するプログラムに関しては、新たなプログラムも含めて、リーダー育成を基軸とした4種の教育プログラムとして整理され、充実が図られている。</li> <li>・ 学位授与における本プログラム修了の明示：参画している学生に対して授与される学位は、本来の研究科のものであるという基本的な制度には変更はないものの、学位審査体制がより統合された点は評価できる。</li> <li>・ 本プログラムの発展性：中間評価時に大学により提示されていた新たな大学院プログラム（世界適塾大学院）への統合というプランに関しては、学長の交代に伴って、その実現性が後退している印象を受けたが、代わって、本プログラムを含む大阪大学のリーディングプログラムは、国からの支援終了後も、大学の制度として継続させるとの考えが示された。</li> </ul> <p>○組織・マネジメント体制等について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前年度に引き続いてプログラム責任者の交代が行われているが、プログラムコーディネーターのもと、特任教員を中心として、充実したマネジメントが行われている。</li> </ul> <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 参画する学生の多様性：入学年次を重ねるにつれて、外国人学生や女子学生が増えており、また学生が所属する研究室の多様性も明らかに増大している。</li> <li>・ 学生の充実感の増加：支援学生との意見交換により、各学生が本プログラムへの参画により充実感を感じており、これまでよりも明らかに、自らの進路に自信を持つようになっていることが感じられた。</li> </ul> <p>2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学位プログラムの発展性について：現在、支援期間終了後の本プログラムへの支援に関して、現実的な予算措置が予定されていない状況であり、速やかに、大学本部および学内の他のプログラムと協調して、より具体的なプランを打ち出すことが必要であろう。</li> <li>・ 後期課程プログラムの充実は高く評価できるが、これらのプログラムには、支援学生がより主体的に参画できるような仕組みを導入することが望ましい。</li> </ul>			